

2018年度

U 日本史問題

注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はI・IIとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

(3と解答する場合)

I. 次の文1～3を読み、下記の設問A・Bに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

1. 日本古代においては、在地首長層が一定領域内の耕地や山野河海を領有したとされる。こうした在地社会での耕地領有を集約して、律令国家は一定の条件を満たす公民に定期的に口分田を班給する班田収授制を導入した。これが本格化したのは、(イ)と呼ばれる¹⁾戸籍が作られた2年後の692年からであったと考えられる。律令国家は、灌漑設備を整備し田地を6町四方に区画する(ロ)を施行した口分田を班給した。(ロ)を施した水田は「東大寺領糞置莊開田図」にも記されており、また現在の地形にまで影響しているものがある。口分田を班給された民衆の負担は重く、春や夏に強制的に種籾などを貸し付けられ、秋に3～5割の利息とともに返済させられた(ハ)の制度も、もとは民衆生活の維持を目的としたものであったが、負担の一種となった。10世紀に入ると、菅原道真を大宰権帥に左遷し政界から追放した左大臣(ニ)が太政官符を発して、班田収授の励行や調・庸の品質確保などを命じたが、作成された戸籍が実態とかけ離れるなどが原因で、班田収授は不可能となった。この時期、こうした律令地方行政の崩壊が進んだことは、(ホ)が醍醐天皇に提出した「意見封事十二箇条」でも指摘されている。やがて政府は国司に一国内の統治を委ねる方針に転換し、税の賦課のあり方が²⁾大きく変わるとともに、受領の権限が強まった。

2. 白河天皇は上皇となると、御所に(ヘ)という家政機関を設けて多数の院司をおき、自身の土地や財産を管理させた。白河・鳥羽院政期には(ヘ)下文という下達文書によって多くの荘園が立荘されるようになり、国衙との対立が深まったが、保元の乱が収まると荘園整理令が発せられ、(ヘ)下文によって立荘された荘園などは保護³⁾されて荘園公領制が確立した。治承・寿永の内乱のなかで東海・東山道の東国一帯の支配権を朝廷から公認された源頼朝は、1185年に守護・地頭を任命する権利を獲得した。これにより諸国への地頭職補任が公認され、鎌倉幕府は荘園と公領の両方に御家人を配置して権力を浸透させることに成功した。さらに北条氏による執権政治のもと、幕府は承久の乱に勝利して、後鳥羽上皇方についた貴族・武士の所領を没収し、多くの地頭を設置した。新たに任命された地頭は旧来の荘官などの得点を引き継いだ⁴⁾が、得点が少ない場合や先例となる規定がない場合には、(ト)が適用された。(ト)では、田畠11町ごとに1町の地頭給田が与えられ、その年貢は地頭の収入となることなどが決められた。こうした戦乱や飢饉で社会が荒廃するなか、多様な人々を救済するために新しい仏教を説くものが現れた。やがて耕地の開発が積極的に進められ、蒙古襲来の前後⁵⁾か

ら農業の発展がみられるようになった。

⁶⁾鎌倉幕府の衰退・滅亡、その後の建武政権の成立と挫折、さらに南北朝の動乱と続く戦乱の長期化により、領主による所領支配は軍事的な実力によって争われる状況となった。このなかで軍事指揮権を握る守護の権限が拡大した。こうした権限の1つに、幕府の判決内容を強制的に執行させるために使者を遣わす（チ）権があり、こうした権限などの行使によって、守護は武士の紛争に介入した。とくに軍費調達のための臨時的な措置であった半済令が長期化すると、守護権力の在地社会への浸透は促進された。動乱に終息の兆しがみえると、室町幕府は無期限の全国令である（リ）の半済令を出したが、これは天皇家領や寺社領などの権益を守り守護権力の拡大を抑制する機能ももった。またこの半済令が出された（リ）元年は、まだ幼少の足利義満が、管領であった（ヌ）の後見を受けて将軍に就任した年にあたり、このあと義満は幕府の機構を整えて、⁸⁾軍事的・経済的基盤を固め、守護権力の自立を抑え込んだ。一方守護は、戦時から平時への転換に伴い、寺社領などの代官を請け負ったり、北山第や⁹⁾禅宗寺院造営の動員に応じたりするなど、地域支配の権限を確保し続けた。そのもとで在地における徴税などの枠組みは大きくは変わらず、荘園制は継続した。

3. 戦国時代を通じて形成されてきた百姓の再生産組織が惣村であり、これを前提に全国的に太閤検地が実施され、それに伴う村切によって、江戸時代の社会の基礎的な集団である¹⁰⁾村が形成された。検地などの政策によって¹¹⁾荘園制は解体し、各村の石高とともに諸大名が領有する石高も決まり、大名がこれにもとづき軍役を奉仕する体制ができた。

18世紀になると江戸幕府は財政再建のため、検見法を改め、一定期間は同じ年貢率を続ける（ル）を取り入れて年貢増徴を目指すとともに、新田開発を奨励した。新田開発では、村々が入会で利用していた山野などが開発対象となり、その権利をめぐる村落間での争論が起こった。このなかには幕府の機構の窓口に訴えが出され、裁判が行われる場合もあった。¹²⁾近世後期になると、村内外から田畑を取得し商品生産と流通の担い手として成長した豪農が、田畑を小作人に貸して小作料を取るようになった。豪農と貧農や小作人との間には対立が生じ、村方騒動が頻発するとともに、都市に奉公や日用稼ぎに出て村を離れるものが増加し、村の構成は大きく変わった。こうした周辺農村からの人々の流入などもあって、巨大都市江戸には多くの下層民衆が溢れ、老中松平定信は寛政の改革を推進するなかで、その対策に追われた。松平定信の自叙伝である『（ヲ）』¹³⁾には、そうした対策のほか対外的危機に関する記述も散見される。

A. 文中の空所(イ)～(ヲ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の下線部1)～13)にそれぞれ対応する次の問1～13に答えよ。

1. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 口分田は死ぬまで耕作できるが、その売買は許されなかった
- b. 口分田に租を賦課するために計帳が作成された
- c. 私有の奴婢には、良民男女のそれぞれ3分の2の口分田が班給された
- d. 男性には2段、女性にはその3分の1の口分田が班給された

2. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。

この問題については、選択肢の中に記述として正しいものがなく解答不可能なため、全員正解とすると大学から公表されています。

- a. 郡司の藤原元命が増税に反対して受領を訴えた
- b. 国司は請負人の名がついた負名を直接把握して徴税した
- c. 受領の藤原陳忠の強欲さが『陸奥話記』に記されている
- d. 租・調・庸の系譜を引く税である臨時雑役が課された

3. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 後白河天皇は藤原信頼の進言により、平清盛らを集めた
- b. 崇徳上皇は藤原頼長と結んで、源為義らを集めた
- c. 藤原通憲が上皇の御所である白河殿をおそった
- d. 源義朝が上皇の御所である三条殿を焼き払った

4. これに関する次の出来事 a～d のうち、もっとも古いものを解答欄の i に、次に古いものを ii に、以下同じように iv まで年代順にマークせよ。

- a. 御成敗式目が制定された
- b. 執権を補佐する連署がおかれた
- c. 三浦泰村が滅ぼされた
- d. 和田義盛が滅ぼされた

5. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 曹洞宗をひろめた栄西は、越前永平寺の開山となった
 - b. 日蓮は『摧邪輪』を著して、他宗をきびしく排撃した
 - c. 法然は、九条兼実の求めに応じて『選択本願念仏集』を著した
 - d. 無学祖元は臨済宗の普及に貢献し、建長寺を開いた
6. これに関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 刈藪・草木灰・厩肥などの肥料が利用された
 - b. 畿内とその周辺では、麦を裏作とする二毛作が普及した
 - c. 鋤・犁・備中鍬などの鉄を使った農耕具が発達した
 - d. 大唐米という悪条件での栽培に強い米が作付けされた
7. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 足利尊氏は後醍醐天皇を廃し、持明院統の光厳天皇を立てた
 - b. 鎌倉には北畠親房の子頭家が補佐する鎌倉將軍府がおかれた
 - c. 後醍醐天皇は大内裏造営を計画し、貨幣を発行しようとした
 - d. 北条高時の子貞時が信濃で挙兵し、足利直義軍を破った
8. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 足利尊氏の子である足利持氏を鎌倉公方として鎌倉府を開かせた
 - b. 奉公衆と呼ばれる直轄軍は、將軍の直轄領である御料所の管理を委ねられた
 - c. 政所の長官は、赤松・一色・山名・京極の四氏から任命された
 - d. 港町である堺と博多を把握し貿易の利を上げていた土岐氏を討伐した
9. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 桂庵玄樹は朱子学を講じ、海南学派を形成した
 - b. 虎関師錬は仏教史書『元亨釈書』を著した
 - c. 絶海中津は足利義満の帰依を受けて、相国寺を建立した
 - d. 明兆は修行のための禅問答を『瓢鮎図』などに描いた

10. これに関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 田畑一区画ごとに、上・中・下などの等級や面積・名請人を決め、検地帳に登録した
 - b. 豊臣秀吉は「山のおく、海はろかいのつづき候迄」念を入れて検地するよう指示した
 - c. 肥後国や東北の葛西・大崎で検地反対一揆が起こった
 - d. 面積表示を町・段・畝・歩に統一するとともに、6尺5寸四方を1歩とし、360歩を1段とした
11. これに関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. かわたは、百姓とは別の村や集落をつくり、農業や皮革業などに従事した
 - b. 1つの村に複数の領主や知行主の支配が同時に存在する相給の村があった
 - c. 村には百姓以外に、僧侶や神職などの宗教者、職人や商人などは含まれなかった
 - d. 有力な本百姓の家に代々隷属する名子・被官などと呼ばれる農民も存在した
12. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 大目付は大名の、目付は旗本・御家人の監察を行った
 - b. 京都所司代は、旗本から任命された武家伝奏を通じて朝廷を統制した
 - c. 幕政を統轄する老中には、25000石以下の譜代大名や旗本が任命された
 - d. 幕府直轄領の関東・駿府・飛騨などには郡代がおかれた
13. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 大槻玄沢が『後見草』で一揆・打ちこわしと寛政の改革との関連を指摘した
 - b. 寛政の三博士と呼ばれる柴野栗山・尾藤二洲・岡田寒泉を幕府儒者に登用した
 - c. 町人を対象に、朱子学の理解を試す学問吟味という試験制度を始めた
 - d. 両替商などの新興商人を勘定所御用達に登用し、特権的な株仲間を解散した

Ⅱ. 次の文1～5を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

1. 無名の工人が生み出す日常的な美や民衆的工芸を評価し、「民芸」という言葉を造り出した柳宗悦は、1889年¹⁾、父・楢悦^{ならよし}と母・勝子の三男として東京の麻布に生まれた。宗悦の生年は、大日本帝国憲法が公布された年にあたる。1855年、幕府によって、洋式兵制導入のためオランダ士官を教官として設けられた（イ）が長崎に開設されると、父親の楢悦は津藩から選ばれてここに派遣され、洋算や航海術などを習得した。彼は幕末・維新のさまざまな政治過程を経たのち、海軍少将となっている。また、宗悦の母方²⁾の祖父である嘉納治郎作希芝は海軍省官吏だった。そのため勝海舟とも親交があったことから、娘の名を勝子としたという。なお、勝子の弟の嘉納治五郎³⁾は講道館を創設した柔道家である。楢悦・勝子の間には三男三女があったが、長男・悦多^{よしむち}や次男・楢喬^{ならたか}、三女・千枝子は、それぞれ、第二次（ロ）内閣組閣中に起こった関東大震災や、渡米先でのスペイン風邪、朝鮮での産褥熱のため亡くなっている。また、宗悦からみて姉の直枝子^{すえこ}と田鶴子のうち、田鶴子は宗悦が生まれる前に亡くなっている。直枝子は、夫・加藤本四郎が在奉天総領事をつとめていた時期の繋がりにより、戦前から親英米派外交官で1946年に総理大臣⁴⁾となった（ハ）と晩年まで親交があった。
2. 宗悦は、初等学科から高等学科までのときを過ごした学習院で、ドイツ語教師であり、後に『善の研究』を著した（ニ）や、英語教師であった仏教哲学者・鈴木大拙らに出会ったほか、オーギュスト・ロダンの書物に学びながら自然と接する機会も多くもっていた。宗悦は、1910年、雑誌『白樺』が創刊された時から、白樺派の活動に参加している。同人である、『お目出たき人』などを著した（ホ）や、『< あ >』などを著した志賀直哉、『カインの末裔』などを著した（ヘ）、さらに準同人とも言うべき英国人バーナード・リーチらと交友を深め、切磋琢磨しながら思想を形成していった。『白樺』に参加した宗悦は当初、神学に関心を示し、学習院を経たのち東京帝国大学へ入学している。また宗悦は、東京音楽学校で学んだ中島兼子と結婚している。兼子は、のちに声楽家として世に知られることになった⁵⁾。なお、兼子の祖父である中島成道は、幕府の命によってオランダに留学した。ともに留学した仲間のなかには、のちに戊辰戦争で箱館の西洋式城郭である（ト）に立てこもって抵抗した榎本武揚もいた。
3. 1919年、京城（現ソウル）の（チ）公園で独立宣言書朗読会が行われたのを機に展開された、朝鮮全土での独立を求める大衆運動が、宗悦の人生を思わぬ方向へと導く

こととなった。宗悦は、日本の武力による朝鮮での弾圧政策に衝撃を受け、次々と日本の朝鮮政策批判の文章を公表していった。それとともに宗悦は、朝鮮の芸術に対する関心を高め、1922年には、京城にある朝鮮王朝時代の王宮、景福宮の正門である光化門の破壊に反対する文章を発表するなどしている。なお景福宮は、朝鮮王朝の王宮として創建後、豊臣秀吉の侵略の時期に焼失したが、再建を経て、再び正宮として使用されていた。朝鮮に関する活動は、宗悦の平和思想を内面化させ定着させていった。さらに宗悦は仲間にも触発されつつ、反戦感情を育んだ。影響を受けた仲間として、(ホ)や、志賀直哉らが挙げられる。(ホ)は、日露戦争前後にトルストイに心酔し非戦論者になっていた。また、志賀直哉は(リ)⁸⁾の非戦論に強い感化を受けていた。(リ)は、キリスト教徒で、1891年には教育勅語への敬礼を拒否して第一高等中学校の教壇を追われていた。

4. 朝鮮とのかかわりを深め、その芸術への関心を一層強めていくなかで、宗悦は民芸に開眼していく。1925年に、宗悦は、陶芸家の河井寛次郎、浜田庄司とともに、民芸という言葉を作り出した。そして、美と社会を関連付けながら、理想社会をめざそうとする芸術的社会運動としての民芸運動に邁進していった。しかし宗悦は、1937年に始まった日中戦争以降の戦時下において、難しい課題に直面する。民芸運動が潰されないように配慮しつつ、非戦思想を維持して、戦争を煽り立てる行為に加担しないという課題である。日本政府は、より効果的な国民総動員の方法を求めて地方文化の活性化をはかる方針をとっていた。宗悦は、この方針に民芸運動発展のため協力した。また、首相を総裁、道府県知事を支部長、部落会・町内会・隣組を下部組織とする機関である(ヌ)や、内閣情報局との関係も近くなった。一方で、沖縄「方言」論争やアイヌに関する文章などから伺えるように、皇民化政策には距離をおいていた。¹¹⁾

5. 第二次世界大戦後、宗悦は、理想的な民芸美を生み出す手がかりを仏教に求めた。1949年前後には、『美の法門』を書きあげ、以後は「美の宗教」運動を展開していく。また、かつて踊念仏によって、<い>と呼ばれた教えを広めた一遍についての研究なども行っている。1961年、宗悦は72歳で、その生涯を終えた。近年、その思想や運動は、男性中心の運動であったとの指摘や、「帝国」日本を中心としながら、朝鮮や沖縄、台湾、アイヌの人々や国・地域を「周辺」として眼差す、オリエンタリズムあるいは「オリエンタル・オリエンタリズム」であるとする批判が加えられている。他方、多民族・多文化が共生する世界の実現を目指そうとした思想であるという評価もなされている。

A. 文中の空所(イ)～(ヌ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の空所<あ>・<い>にあてはまる適当な語句を、それぞれ対応する次の a～d から 1つずつ選び、その記号をマークせよ。

<あ> a. 伊豆の踊子 b. 腕くらべ c. 城の崎にて d. 痴人の愛

<い> a. 時宗 b. 曹洞宗 c. 法相宗 d. 臨済宗

C. 文中の下線部 1)～13)にそれぞれ対応する次の問 1～13)に答えよ。

1. この年に、玄洋社の青年により負傷させられた外務大臣は誰か。その名をしるせ。

2. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1つを選び、その記号をマークせよ。

a. 坂本龍馬は、土佐で海援隊を組織し、新国家の構想を提起したが、江戸で暗殺された

b. 鳥羽・伏見の戦いでは、幕府軍が勝利し、徳川慶喜が京都に戻った

c. 1871年、廃藩置県が断行されたが、翌年、琉球藩が設置された

d. 1872年の徴兵告諭にもとづき、翌年、国民皆兵を原則とする屯田兵制度が設けられた

3. この人物に関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1つを選び、その記号をマークせよ。

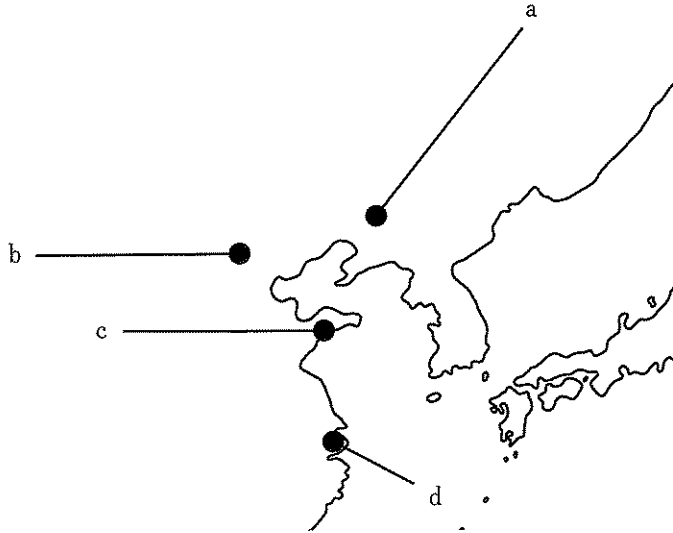
a. 江戸で兵学を講じ、吉田松陰や佐久間象山などを育てた

b. 日本がアジアを脱して列強の一員となるべきことを、「脱亜論」で説いた

c. 1860年、日米修好通商条約の批准書交換の際、咸臨丸に乗り随行した

d. 1868年、東征軍参謀桂小五郎との交渉により江戸城を無血開城した

4. これはどこか。次の図中の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。



5. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 岡倉天心が校長となり、官立学校として開校した
- b. 優れた歌曲を残した伊沢修二、滝廉太郎らの音楽家が卒業した
- c. 1887年に設置され、専門的な西洋音楽の教育をすすめた
- d. 1897年の帝国大学令により、帝国大学の一部となった

6. この年に、杉山元治郎や賀川豊彦らによって、小作人らの組合として結成された全国組織は何か。その名をしるせ。

7. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 豊臣秀吉の一連の朝鮮侵略は、朝鮮では応永の外寇と呼ばれた
- b. 豊臣秀吉は肥前の名護屋に本営をおき、小西行長らを先鋒として朝鮮へ大軍を送った
- c. 李成桂率いる朝鮮水軍の活躍や、朝鮮義兵の抵抗で、しだいに日本軍は不利になった
- d. 連行した朝鮮人陶工が、薩摩焼や瀬戸焼、常滑焼を始めた

8. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 開戦前、歌人の与謝野晶子は、「君死にたまふこと勿れ」とうたう反戦詩を『万朝報』に発表した
 - b. 賠償金をとれないことに国民は不満をもち、日比谷公園で開かれた講和反対の大会は暴動に発展した
 - c. 1904年初めに、日本はほとんど兵を失わず、労なくして旅順要塞を陥落させた
 - d. 1905年9月、アメリカのサンフランシスコで日本全権小村寿太郎とロシア全権ウイッテが講和条約に調印した
9. この年に起こった出来事でないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 治安維持法制定
 - b. 日ソ基本条約締結
 - c. パリ不戦条約調印
 - d. 普通選挙法制定
10. この年に起こった出来事はどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 学校教育法制定
 - b. 教育基本法制定
 - c. 文化勲章制定
 - d. 文化財保護法制定
11. これに関して、「内鮮一体」のかけ声のもと、朝鮮の人々の名前を日本風に変えるための制度が実施された。それを何と呼ぶか。その名をしるせ。
12. この年に設立された、日本のあらゆる分野の科学者を代表する機関は何か。その名をしるせ。
13. この年に制定された、農業と他産業との生産性の格差是正や、自立経営農家の育成を目指すための法律は何か。その名をしるせ。

【以下余白】